This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

Japanese Laid-Open Utility Model Application 1-174510

Laid-Open: December 12, 1989

Filing Date: May 30, 1988

Title of the Invention: OVERHEAT PREVENTION DEVICE FOR EXHAUST GAS FILTER

Applicant: Isuzu Jidosha Kabushiki Kaisha

Scope of the Claim

An overheat prevention device for an exhaust gas filter, wherein:

a heat operated actuator is provided which axially supports a baffle plate, which folds out into a disk shape from a folded state, overlapping an exit center portion of the filter and opens the baffle plate at or above a predetermined temperature.

14: Filter

22, 24: Heat operated actuators

25: Bi-metal

32: Support axis

33, 33a: Baffle plates

19日本国特許庁(JP)

@実用新案出願公開

◎ 公開実用新案公報(U) 平1-174510

動Int. Cl. *
識別記号 庁内整理番号 @公開 平成1年(1989)12月12日
F 01 N 3/02 3 3 1 T - 7910 - 3 C A - 7910 - 3 C Q - 7910 - 3 C 審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

図考案の名称 排ガスフイルタの過熱防止装置

②実 顧 昭63-71472

②出 顧 昭63(1988)5月30日

@考案者 我 部 正 志

神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番1号 いすば自動車

株式会社川崎工場内

勿出 願 人 いすば自動車株式会社

東京都品川区南大井6丁目22番10号

個代 理 人 弁理士 山本 俊夫

砂実用新案登録請求の範囲

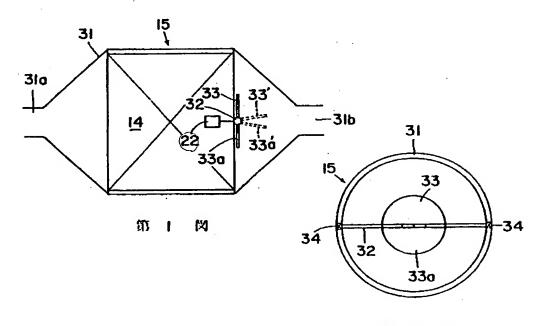
フイルタの出口中心部に折り重なつた状態から 円板状に拡開する邪魔板を軸支持し、所定温度以 上で邪魔板を拡開させる熱応動アクチュエータを 邪魔板に備えたことを特徴とする排ガスフイルタ の過熱防止装置。

図面の簡単な説明

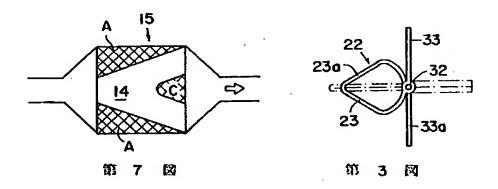
第1図は本考案に係る排ガスフイルタの過熱防止装置の概略構成を示す側面図、第2図は同背面

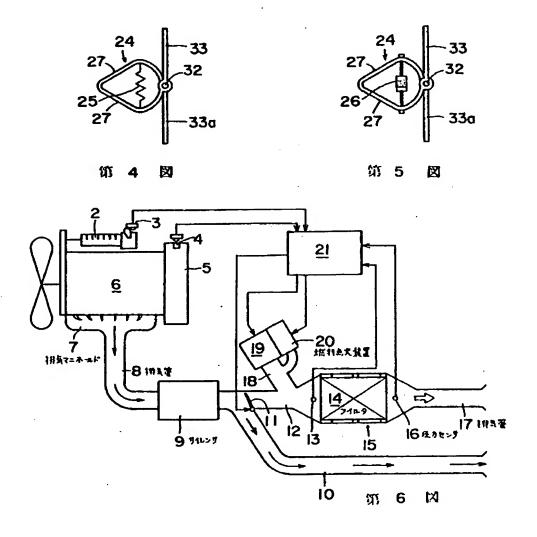
図、第3図は熱応動アクチュエータの側面図、第4,5図は熱応動アクチュエータの他の例を示す側面図、第6図は内燃機関の排ガス浄化装置の全体構成図、第7図は同装置のフィルタの作用を説明する側面図である。

14:フイルタ、22,24:熱往動アクチユエータ、25:パイメタル、32:支軸、33,33a:邪魔板。



a: 2 M





公開実用平成 1−174510

19 日本国特許庁(JP)

①実用新案出願公開

② 公開実用新案公報(U)

平1-174510

®Int. Cl. ¹

識別記号

庁内整理番号

49公開 平成1年(1989)12月12日

F 01 N 3/02 3 3 1

3/24

T-7910-3G A-7910-3G Q-7910-3G審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

図考案の名称 排ガスフイルタの過熱防止装置

顧 昭63-71472 ②実

颐 昭63(1988)5月30日 223出

⑰考 案 者 我 部 īΕ 志 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番1号 いすご自動車

株式会社川崎工場内

创出 願 人

東京都品川区南大井6丁目22番10号 いすば自動車株式会社

弁理士 山本 俊夫 磴代 理 人

1. 考案の名称

排ガスフィルタの過熱防止装置

2. 実用新案登録請求の範囲

フィルタの出口中心部に折り重なつた状態から 円板状に拡開する邪魔板を軸支持し、所定温度以 上で邪魔板を拡開させる熱応動アクチュエータを 邪魔板に備えたことを特徴とする排ガスフィルタ の過熱防止装置。

3. 考案の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本考案は内燃機関の排ガス中の未燃物を除去する排ガスフィルタの過熱防止装置に関するものである。

[従来の技術]

第4図に示すように、内燃機関6で燃焼した排 ガスは、排気マニホールド7から排気管8へ排出 され、サイレンサ9で消音された後、フイルタ1 4で未燃物(パテキュレート)を除去され、排気 管17から外部へ排出される。フイルタ14は入

_ 1 _

140

公開実用平成 1─174510

口側から出口側へ延び、かつ途中で互いに連通する多数の細い通路を有するセラミック成形体からなり、排ガスが通過する内に未燃分が通路内で除去される。フィルタ14で除去された未燃物は、これを電熱で高温に晒し燃焼空気を送り込んで再燃焼けるので生成したの314の送り込んで再燃焼させる。これによりフィルタ14が再生される。

フィルタ14の再生期間中は切換弁11によりフィルタ14の入口側の排気管12を閉鎖し、サイレンサ9からの排ガスをバイパス管10を経て外部へ排出する。

フィルタ14の目詰り状態は、フィルタ14の 入口側と出口側に配設した圧力センサ13,16 と、内燃機関6における燃料噴射ポンプ2の燃料 制御ラツク杆に対設した負荷センサ3と、内燃機 関6のフライホイール5に対設した回転数センサ 4との信号から検出される。これらの信号を入力 とする電子制御装置21の出力により、切換弁1 1を切り換え、燃焼器19と燃料点火装置20を 駆動して燃焼ガスをフィルタ14へ送り込み、フィルタ14を再生する。

フィルタ14が再生されると、燃料点火装置2 〇と燃焼器19を停止し、切換弁11を戻し、サイレンサ9からの排ガスをフィルタ14を通して排気管17へ排出する。

ところで、上述のようにフイルタ14へ高温燃焼ガスを送り込んで未燃物を燃力の流れの状態から、第5図に符号Aで素がから、第5図にのなりではあるで、カーの人口側間のではあるで、カーの大型をもつて、カーの大型をもつなりではある。その大型をもの未燃物がある。その大型をあると、があると、があると、がある。との出口側中心部をある。イルタ14が溶損する恐れがある。

フィルタ内部の温度分布を均一にするために、

公開実用平成 1-174510

例えば実開昭 59-114408号公報に開示される技術では、整流板により入口側の燃焼ガスを周囲部へ 個向させているが、未燃物が再燃焼すると電熱の ためにフィルタ14の中心部が周囲部に比べて高 温になり、フィルタ14が溶解したり、割れたり する。

[考案が解決しようとする問題点]

本考案の目的は上述の問題に鑑み、フィルタの 出口の異常温度上昇を回避することにより、フィ ルタの周囲部の未燃物の燃焼を促し、フィルタを 均一に再生し得る、排ガスフィルタの過熱防止装 置を提供することにある。

[問題を解決するための手段]

上記目的を達成するために、本考案の構成はフィルタの出口中心部に折り重なつた状態から円板状に拡開する邪魔板を軸支持し、所定温度以上で邪魔板を拡開させる熱応動アクチュエータを邪魔板に備えたものである。

[作用]

フィルタ14の出口中心部に配設した折り畳み

可能に軸支持された邪魔板33、33aは、フィルタ出口の温度が所定値を超えると、円板状に拡がり、これにより燃焼ガスの流れが周囲部へ偏向され、フィルタ14の中心部の酸素濃度が低下する。したがつて、中心部での未燃物の燃焼温度が低下し、フィルタ14の溶解や割れが回避される。

[考案の実施例]

第1,2図に示すように、円筒形のフィルタ1 4を収容するハウシング31は、両端部を円錐形 に絞られて入口31aと出口31bが形成される。 セラミツク成形体からなるフィルタ14は多数の 軸方向の細い通路が備えられ、この通路間は途中 で互いに連通される。このようなフィルタ14は 公知であるので、これ以上説明しない。

本考案によれば、フィルタ14の出口中心側に 支軸32により縮拡可能の半円形の1対の邪魔板 33,33 aが支持される。すなわち、フィルタ 出口の温度が所定値を超えると、熱応動アクチュ エータ22により1対の邪魔板33,33 aが円 板状に拡がり、逆に温度が所定値以下になると、

公開実用平成 1─174510

破線で示すように互いに折り畳まれた状態になる。 ヒンジの支触32の両端はハウジング31の周壁 部に軸受34により支持される。

第3図に示すように、熱応動アクチュエータ2 2はフイルタ14の出口側に設けた空部に収容されるもので、例えば第3図に示すように、形状記憶合金からなる帯板をU字形に折り返してなり、上側端部を邪魔板33aのヒンジ部に、下側端部を邪魔板33のヒンジ部にそれぞれ結合して構成される。

熱応動アクチュエータ22が燃焼ガスに晒されて所定温度を超えると、破線で示す状態から記憶された形状すなわち菱形に湾曲して邪魔板33と33aが支輪32を中心として拡開され、フィルタ14の出口中心部を閉鎖する。これにより、燃焼ガスの流れが中心部から周囲部へ偏向され、フィルタ全体の未燃物が均一に燃焼される。

フィルタ14の未燃物が完全に除去された後、燃焼器19の運転を停止すれば、フィルタ出口の 温度が低下し、邪魔板33.33aは互いに折り 費まれた状態となり、通常の機関運転における排 ガスの流れを妨げない。

第4図に示す熱応動アクチュエータ22の他の 実施例では、U字形ないし菱形に湾曲された耐熱 性金属板27の一端が邪魔板33のヒンジ部に、 他端が邪魔板33aのヒンジ部に結合される。そ して、上下に折り重ねた耐熱性金属板27の間に パイメタル25が結合される。この実施例では、 フイルタ出口の温度が高くなると、パイメタル2 5が長く伸びて耐熱性金属板27が押し拡げられ、 邪魔板33,33aが円板状に拡開される。

第5図に示す実施例では、重ね合された1対の耐熱性金属板27の間に、バイメタル25に代る熱膨張体26を、シリンダとピストンとの間の室に収容してなり、フイルタ出口の温度が所定値を起えると、ピストンとシリンダが相対的に伸長し、1対の耐熱性金属板27が互いに押し拡げられ、邪魔板33,33aが円板状に拡開される。

[考案の効果]

本考案は上述のように、フィルタの出口側中心

公開実用平成 1─174510

部に折り重なった状態を を軸支持し、所定との ののからのの のので、所定は を動アクイルを がのので、 のので、 がのので、 のので、

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る排ガスフィルタの過熱防止装置の概略構成を示す側面図、第2図は同背面図、第3図は熱応動アクチュエータの側面図、第4,5図は熱応動アクチュエータの他の例を示す側面図、第6図は内燃機関の排ガス浄化装置の全

体構成図、第7図は同装體のフィルタの作用を説明する側面図である。

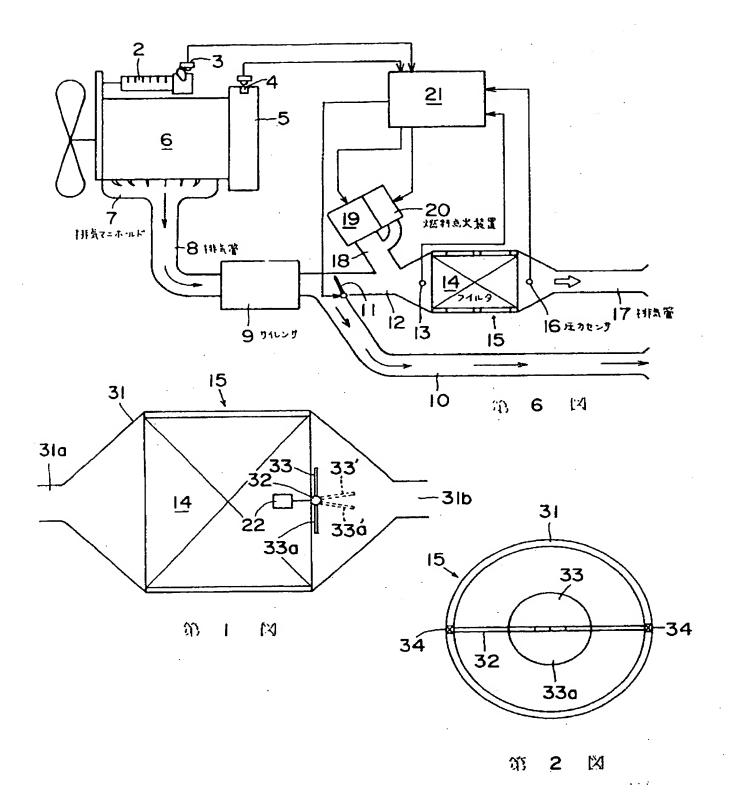
14:フィルタ 22,24:熱往動アクチュエ

-タ 25:バイメタル 32:支輪 33,3

3 a:邪魔板

実用新案登録出願人 いすべ自動車株式会社 代理人 弁理士 山本俊夫

公開実用平成 1-174510



119 実現1-174510 で 27 おかわ 山本代

